



JAMS NEWS

日本経営システム学会
<http://www.jams-web.jp/>

日本経営システム学会 第63回全国研究発表大会のご案内

会員の皆様には、時下益々ご清祥ことお慶び申し上げます。さて、日本経営システム学会第63回全国研究発表大会が2019年11月9日(土)、10日(日)に神戸学院大学 ポートアイランドキャンパス(神戸市中央区)にて開催されます。多くの会員の皆さまのご参加およびご発表を心よりお待ちしております。

記

開催日: 2019年11月9日(土)、10日(日)

開催場所: 神戸学院大学 ポートアイランドキャンパス

〒650-8586 神戸市中央区港島1-1-3

交通アクセス <https://www.kobegakuin.ac.jp/access/portisland.html>

連絡先: 実行委員長 神戸学院大学 毛利進太郎

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518

TEL: 078-974-5361 E-mail: mohri@eb.kobegakuin.ac.jp

主催: 日本経営システム学会

統一論題: 「価値の創造と経営システム」

特別講演: 「神明グループの挑戦 ～食のバリューチェーンの構築に向けて～」

株式会社神明ホールディングス 代表取締役社長 藤尾益男氏

基調講演: 「経験価値の共創 ～オンライン社会におけるオフライン体験の意義と未来～」

神戸学院大学 経済学部講師 小暮衣里氏

参加費: 会員 5,000円、学生会員 3,000円、協賛学会員・同学生会員はそれぞれ会員・学生会員と同額、非会員 6,000円、非会員学生 4,000円、(当日支払は各 1,000円高)

懇親会費: 会員 5,000円、学生会員 3,000円、協賛学会員 5,000円、非会員 6,000円(当日支払各 1,000円高)

昼食: 大学内の食堂は、9日(土)は営業しております。10日(日)は営業していませんので最寄りのコンビニエンスストアなどご利用ください。

宿泊: 三ノ宮駅周辺にホテルが多数ございますので、各自でご手配下さい。

発表申込: 発表申し込みは、学会ホームページ <http://www.jams-web.jp/> の発表申込フォームから申し込みいただくか、ダウンロードした申込書に必要事項を記入の上、メール添付で学会事務局 E-Mail: keieisys@jams-web.jp へ、9月6日(金)までに送信してください。本 JAMS NEWS の発表申込書を学会事務局宛 Fax.03-3371-5185 にご送付いただいても構いません。

原稿締切: pdf および word 入稿または郵送にて、10月4日(金)まで(厳守)、学会事務局宛または第63回大会発表原稿入稿フォームからご投稿ください。

参加申込: 次号 JAMS NEWS に同封の振込用紙または HP の振込方法を参考に11月1日(金)までに上記金額をお振込み下さい。期限後に振込みされた方は、振込控えまたはコピーをお持ち下さい。

■会場設備について

全ての発表会場に PC(Windows, MS-Office)とプロジェクタが設置されていますので、原則として会場の設備をご利用下さい。データは USB メモリに入れてお持ち下さい。特殊なソフトをご使用の場合は、ノート PC をお持ち込みも可能ですが、コネクタ接続など準備に時間がかかりますので、ご注意ください。

■大会会場へのアクセス

神戸学院大学 ポートアイランドキャンパス

- JR 神戸線「三ノ宮駅」、阪急・阪神「神戸三宮駅」、神戸市営地下鉄「三宮駅」から神戸新交通ポートライナー「みなとじま駅」下車、西へ徒歩約 6 分。
または「三宮駅（そごう前・キャンパス線）」から「ポーアイキャンパス行」バスで約 14 分
- 神戸空港から神戸新交通ポートライナー「みなとじま駅」下車、西へ徒歩約 6 分。

■学生研究発表優秀賞について

当学会では、学生セッションの研究発表を審査して優秀な発表には「学生研究発表優秀賞」を授与しています。学生であれば、正会員・学生会員を問わず、学生セッションの研究発表は審査の対象となります。ただし、下記の点にご留意下さい（もし、ご不明な点がありましたら、学会事務局にお問い合わせ下さい）。

- ・学生セッションの発表は、正会員（一般的には指導教員）との連名とし、ファースト・オーサーは学生とします。
- ・学生セッションでの単独発表は、正会員の学生に限ります。
- ・学生研究発表優秀賞の受賞対象者は、単独発表、連名発表のファースト・オーサーの学生のみとします。
- ・学生セッションの発表原稿は、会員の種別を問わず 2 頁とします。

■研究発表に関する細則について

当学会では、研究発表大会をスムーズに運営するために、口頭発表に関して「研究発表細則」（学会ホームページ <http://www.jams-web.jp/download/jams-kenkyuuhappyou.pdf>）に従って運営しています。口頭発表を申し込まれる前にご確認ください。なお、この細則は、大会委員会および大会実行委員会により運用されます。不明な点がございましたら、学会事務局へお問い合わせください。

会長退任の挨拶

日本経営システム学会 第 18 期会長 塩出 省吾

この度、2 年間担当して参りました日本経営システム学会の会長職を退任することになりました。当初、私に会長職が担当できるか不安は多々ございましたが、理事の先生方のご協力が得られると判断しスタートしました。1 期 2 年ということでしたが、短い間でも課題は多く、理事会でも意見を多数いただきましたが、多くの課題を次期に繰り越さなければならないことは、私の力が足りなかったことも感じており山下新会長には申し訳なく思っております。

しかし、この 2 年間は学会全体を見る機会が与えられ、各委員会が理事会の下で責任を持って機能的に動いており、そのおかげで理事会運営がスムーズに進められていることは常任理事をはじめとする理事の先生方や会員の皆様のお力の結集であろうかと思えます。

本学会との関りは 20 世紀末になり、1999 年の秋の大会を神戸学院大学の有瀬キャンパスで開催し、その 2 日後に 1 年間の在外研究に出発したのを覚えております。2000 年 9 月に帰国した後、本格的に学会運営に関わり、能勢先生の後の関西支部長を引き受けて、その後は常任理事、理事を繰り返し担当させていただきました。本年の秋は私の大学のポートアイランドキャンパスで開催予定で、前回開催から 20 年ぶりということですが、意外とそれほど時が経っていないかのように感じております。

会長職は退任しますが、皆さまからご支援いただきましたことに感謝し、今後も学会に何らかのお手伝いのできればと思います。

今後ともよろしく願い申し上げます。

2018 年 学会賞・論文奨励賞について

表彰委員長 深澤 琢也

標記の賞につき、学会賞・論文奨励賞選考ワーキンググループにおいて、厳正に受賞候補者を選考いたしました。その後、理事会の審議を経て、下記 2 名が 2018 年学会賞、及び論文奨励賞の受賞者に決定し、表彰されましたので報告いたします。

【学会賞】

受賞者：水上 祐治（日本大学），本多 啓介（統計数理研究所），中野 純司（統計数理研究所）

対象業績：Yuji MIZUKAMI, Keisuke HONDA, Junji NAKANO, “Study on Research Trends on the Internet of Things Using Network Analysis”, International Journal of Japan Association for Management Systems, Vol.10, No.1, pp.27- 35(2018)

受賞理由：当該論文は、IoT（Internet of Things）のグローバルな研究動向について、ネットワーク分析に基づき、国別の特性と学術研究分野の相互関係を明らかにし、日本のこの分野の研究を進展させるための方向性を提示している。従来より、インダストリー4.0のコアとなる研究コンセプトは、IoT・ビッグデータ・AI（Artificial Intelligence）と言われてきたが、研究分野横断的な相互依存関係や、研究動向の分析は不十分であった。それに対して、当該論文は、「異分野交流と研究イノベーション力の測定フレームワーク」を提案し、IoT分野に従事する研究者の特徴づけ、研究者の専門分野の特定、異分野融合状況の可視化を行い、IoT研究の発展に関する有用な結果を得ている。その内容は、第一に、コンピュータ科学の研究者と協力関係を確立すること、第二に、臨床医学とIoT研究の間で強い協力関係を確立すること、第三に、センサー技術を向上させるために物理学とIoT研究の協調関係を確立すること、第四に、IoT技術が仲介役となって臨床医学と、分子生物学、遺伝学、および物理学との関係を強化することである。当該論文は、しっかりとした統計分析フレームワークに基づく実証結果から、世界の中で日本が置かれている位置付けを明確にし、その上で施策提言を行っている。国の研究施策に通じるこうした研究成果は、理論的、実務的にも高く評価できる。以上のことから、日本経営システム学会「学会賞」にふさわしい研究論文であると判断する。

【論文奨励賞】

受賞者：江原 泰介（青山学院大学）

対象業績：江原泰介, 蔵本薫, 熊谷敏, 岩田遼, “SNSコネクションマップと中心性指標を用いたインフルエンサー特定方法の提案”, 日本経営システム学会誌, Vol.35, No.1, pp. 15-25(2018)

受賞理由：当該論文は、SNS上で購買行動に影響を与えるインフルエンサーを特定する方法について論じたものである。企業は、インフルエンサーを活用することにより、SNSでの広告宣伝活動の費用対効果を高めようとしており、その特定に注目が集まっている。しかし、数あるSNSユーザーの中からインフルエンサーを特定することは容易ではない。当該論文は、この問題に焦点を当てた論文である。方法としては、まず、SNSページに反応するユーザー同士のネットワークを可視化するSNSコネクションマップを作成し、次に、情報中心性、固有ベクトル中心性、Fruchterman-Reingoldアルゴリズムの3つを組み合わせたインフルエンサー特定手法を提案している。これは、これまでの社会ネットワーク分析の次数中心性を用いた方法に比べて、ユーザー同士のつながりと情報伝達精度の両方を考慮している点、似た特徴を持つユーザーグループに着目してインフルエンサーを特定している点に優位性がある。用語の定義、モデルの提案とその位置付け、アルゴリズムの解説、考察に加え、今後の研究課題も明確に示されており、更なる研究の発展が期待でき、奨励に値すると認められる。以上のことから、日本経営システム学会「論文奨励賞」にふさわしい研究論文であると判断する。

第 62 回全国研究発表大会の報告

大会実行委員長 佐々木 桐子

日本経営システム学会の第62回全国研究発表大会は、2019年5月25日（土）～26日（日）の両日に、統一論題「食文化と経営システム」のもと、新潟国際情報大学 新潟中央キャンパス（新潟市中央区）で開催されました。日本経営システム学会の全国研究発表大会を新潟国際情報大学 新潟中央キャンパスで開催するのは、ちょうど10年前の2009年の第42回大会に次いで2回目となりました。

2日間にわたる研究発表では、統一論題2件、研究部会15件（うち学生発表3件）、自由論題57件（うち学生発表27件）の合計74件の報告が行われました。大会参加者は136名（事前115名、当日21名）、懇親会参加者は53名（事前44名、当日9名）でした。

大会開催に際しまして、前会長の塩出省吾先生、現会長の山下洋史先生をはじめ理事の先生方、発表者・司会者の皆さま、多くの会員の皆さま、学会事務局、懇親会会場・お料理・サービスをご提供いただきました「ピストロ椿」さま、また、本学新潟中央キャンパスの職員、学生スタッフのご協力ならびにご尽力いただきましたことに、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

学生研究発表優秀賞について

表彰委員長 深澤 琢也

第 62 回全国研究発表大会（於：新潟国際情報大学）終了後、表彰委員会を開催し、慎重に受賞候補者を選考いたしました。その後、理事会の審議を経て下記 3 名が学生研究発表優秀賞に決定しましたので報告いたします。

「企業・商品ブランドイメージが推奨意向に与える影響」 加藤 拓巳（筑波大学）

「顧客属性を考慮したプライベート・ブランド購買行動がストア・ロイヤルティに与える影響」
阿部 誠也（早稲田大学）

「電気自動車用リチウムイオン電池の劣化モデルと強制循環方式への適用」 長井 健（早稲田大学）

2018 年度第 4 回理事会のまとめ

- I. 開催日時：2019 年 3 月 10 日（日） 14:30～17:00
- II. 開催場所：東海大学 高輪キャンパス 3 号館 講義室 3
- III. 出席者：塩出、椎原、松岡、石田、板倉、川中、東海、永松、成川、西口、浅井、今井、上原、金子、佐藤、原田、深澤、水野、毛利、柳田、山下、若尾、丸山（監事）松丸（オブザーバー）上西、長野、藪内 敬称略
- IV. 審議事項
 1. 2018 年度第 3 回理事会議事録の確認（毛利）：2018 年度第 3 回議事録の内容が報告され、承認された。
 2. 会員の入退会（毛利）：入退会の状況について説明がなされ、承認された。これにより、正会員 510 名、学生会員 138 名となった。
 3. 規定類の改定について（松岡、椎原）：名誉会員に対応するための規定類の修正について提案され、役員選出規程、学会誌原著投稿規程については次回の総会にて変更を諮ることとなった。役員選出規程については変更案の通りとし、学会誌原著投稿規程については名誉会員については正会員と同等、特別会員については投稿において正会員との会費の差額を投稿料の増額として負担することとなり次回理事会に改正案をまとめることとなった。会則の第 7 条、第 18 条について名誉会員を追記する変更のタイミングについては会長、総務委員会、規程委員会が判断することとなった。関係する規定について修正するという方針が承認され、各規定類での対応の要否を確認することとなった。
また各種委員会が所管する規定類について、細則については支部細則（組織委員会）、研究部会細則（研究委員会）、「学会発表に関する原則について（大会委員会）」については改正案の提案がなされ、「学会発表に関する原則について」は細則とするのか検討を行うこととなった。また「理事会審議における電子メールの利用に関する細則(2013)（総務委員会）」については確認を行い、その他の規定類についても変更の要否を確認し変更がある場合は次回理事会に提案することとなった。
 4. 全国研究発表大会の準備状況について：第 62、63 回大会の準備状況につき報告があり、承認された。
 5. 学会賞・論文奨励賞の選考について（川中）：2018 年の「学会賞」、「論文奨励賞」について表彰委員会より候補者の推薦があり、提案通り承認された。
- V. 報告事項
 1. 第 61 回全国研究発表大会収支報告（丸山）：第 61 回全国研究発表大会収支について報告がなされた。なお余剰金については学会に寄付されることとなった。
 2. 第 20 期役員選挙結果について（川中）：第 20 期役員選挙の結果の常任理事 15 名と会長が選出されたとの報告がなされた。
 3. 第 61 回全国研究発表大会「学生研究発表優秀賞」（川中）：第 61 回全国研究発表大会における学生研究発表優秀賞の受賞者が報告された。
 4. 総会資料等の作成依頼について（毛利）：2019 年度通常総会に向け、各種委員会、支部、研究部会、2018 年度活動報告、2019 年度活動計画について事務局を通じて依頼する旨報告があった。その他：次期国際会議の開催、会員名簿の発行について検討すべきではないかとの提案があった。

2018 年度第 5 回理事会のまとめ

- I. 開催日時：2019 年 4 月 20 日（土） 17:30～20:00
- II. 開催場所：東海大学 高輪キャンパス 1 号館 3 階会議室
- III. 出席者：塩出、椎原、松岡、石田、川中、近藤、今野、島田、東海、永松、成川、西口、水上、村山、石島、今井 (Skype)、上原、金子、佐藤、佐々木、毛利、柳田、山下、山田、若尾、丸山 (監事) 小田 (Skype)、松丸 敬称略
- IV. 審議事項
1. 2018 年度第 4 回理事会議事録の確認 (毛利)：2018 年度第 4 回議事録の内容が報告され、承認された。
2. 会員の入退会 (毛利)：入退会の状況について説明がなされ、承認された。これにより、正会員 507 名、学生会員 143 名となった。
3. 第 62 回全国研究発表大会の準備状況について (佐々木)：会場費については免除となったこと、基調講演、特別講演の代わりに統一論題の発表を行うことなどについて説明がなされ承認された。
4. 規定類の改定について (松岡、水上、永松)：会員種別改定に伴う規定類の改定について説明があった。会則については必要となる大きな変更がないので今年度は変更しない。また役員選出規程について改正案が出され承認された。(松岡)
論文誌編集委員会より、会員種別改定に伴い、正会員と特別会員の費用の公平性を考慮するために学会誌原著投稿規程と学会誌原著執筆細則の改定、学会誌送付の規定の追加ことが承認された。(水上)
大会委員会より「学会発表の原則について」と「研究発表細則」を「研究発表細則」に集約すること。また会員種別改定に伴い、特別会員を追加したことに伴う発表の資格の整理に説明があった。投稿規程との整合性などをとり次回の理事会にかけることとなった (永松)。
また特別会員について次回 JAMS ニュースにて案内し、詳細については Web で周知することとなった。
5. 2018 年度収支決算報告と収支予算について (東海)：2018 年度収支決算報告と収支予算について説明があり、監査を行い総会に諮ることが承認された。
6. 通常総会の議案書について：通常総会の議案書案について確認がなされ、第五号議案を規定類の改定とすること、また最終的な修正については会長、総務委員長に一任するとして承認された。
7. 総会および評議員会の開催について：総会および評議員会の開催の案内について承認された。
8. 総会での役割分担について：総会の司会は大会委員会に選出を依頼すること、議長は総務委員長が行うこと、議事録署名人 2 名、書記 2 名については大会実行委員長に依頼することが承認された。また、1 号議案については椎原副会長、2 号議案については東海財務委員長、3 号議案については椎原副会長、4 号議案については東海財務委員長、5 号議案については石田規定委員長が説明することとなった。
- V. 報告事項
1. 他学会との協賛について (村山)：渉外委員会からの他学会からの協賛について報告があった。
2. 新理事について (山下)：会長指名の常任理事および各委員会の委員長の指名について説明があり、理事の候補者について就任の承諾を依頼中であることが報告された。
-

東海ファジィ研究会（蒲研）のお知らせ

タイトル：第 47 回東海ファジィ研究会(蒲研 2019)開催案内

主催：日本知能情報ファジィ学会東海支部

共催：日本経営システム学会中部支部、あいまい動的状態推定研究会

開催期間：2019 年 8 月 6 日(火)～8 月 7 日(水)

会場：1 日目 愛知工科大学 7 号館 9 階 7912 会議室

〒443-0047 愛知県蒲郡市西辺町馬乗 50-2 TEL 0533-68-1135

参加費：一般・学生 4,000 円、名誉会員 無料

2 日目 公立学校共済組合 蒲郡保養所 蒲郡荘会議室 (小島 A・B)

〒443-0034 愛知県蒲郡市港町 21 番 4 号 TEL 0533-68-2188

招待講演：題目、ロボカップ・チャレンジ 20 年～人とロボットの共生社会を目指して～

村上 和人 先生 (愛知県立大学)

申し込み方法：http://tokai.j-soft.org/tpl_030/Gamaken2019.html から直接申し込んでいただくか、あるいは、経営システム学会側幹事 (小田哲久：oda@aitech.ac.jp) あて、ご連絡ください。

日本経営システム学会 研究発表申込書

2019年度 第63回全国研究発表大会

発表種類 (研究、部会) (発表種類のいずれかを○でお囲み下さい)

発表セッション区分 (一般セッション、学生セッション) (区分のいずれかを○でお囲み下さい)

口頭発表者会員種別 (正会員、学生会員) (会員種別のいずれかを○でお囲み下さい)

会員連絡先

会 員 名			
所 属			
住所 (勤務先・自宅)	〒		
連 絡 先	TEL	FAX	E-mail

論題および発表者

論 題		
ふりがな 発表者氏名 (所属)	1. ()	2. ()
当日の口頭発表者には*を付す	3. ()	4. ()
研 究 部 会 名 (研究部会発表の場合)		代表者名: ()

発表要旨 (200字以内・ワープロプリント貼付可)

キーワード (必ず記入)					

注: 1) 大会プログラムは、この申込書のキーワードおよび発表要旨により編成いたします。

2) プログラム、論文集目次の論題および口頭発表者・連絡者は申込書の記載どおりに掲載いたしますので、明確に楷書にてご記入下さい。(ワープロプリント貼付可)

3) 論文集原稿締切日までに間に合わない場合は、プログラムに掲載され、発表時間も確保されておりますが発表取り消しとしますので、ご了承ください



日本経営システム学会

住所 〒169-0073 東京都新宿区百人町 1-20-3 パラードハイム 703
 TEL03-3371-5324・FAX03-3371-5185
 E-Mail: keieisys@jams-web.jp